

I. 日 時：平成 24 年 2 月 14 日（火）10:00～12:30

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：内山委員長、吉岡委員、中木委員、渡辺委員（ネット）、高松委員
（事務局：井端事務局長、森下主幹、平田職員）

IV. 検討事項

1. 学士力（コアカリ）の実現に求められる教育改善モデルの取りまとめについて

（アンケート調査を踏まえた見直し、修正）

今年度の本委員会は、医学教育モデル・コア・カリキュラムを効果的に実施するための教育改善モデルを提案することを目標としている。前回の委員会で作成した 3 つのモデル案に対して、サイバーFD 研究者を対象としてパブリックコメントを求めた。その結果（医学教育における教育改善モデルへのアンケート結果）に基づいて、3 つのモデル案の修正の検討を行った。なお、福島委員は欠席であったが、アンケート結果に対する意見書を提出いただいております、検討資料とした。

（1）モデル案 1 の追加・修正のポイント

- ・対面の教育が主であるが、モデルではビデオクリップなど、ICT が前面に出過ぎてしまい、ICT は補完的に利用するものであることが読みとれない。対面（実技）と ICT の組み合わせであることを強調するよう、表現を修正する。これは、モデル案 1 に限ったことでなく、すべての案に共通事項である。したがって、小見出し 2.3 と 2.4 の「ICT を用いた……」を「対面と ICT を組み合わせた……」と改める。（委員会後、吉岡委員から、ICT を活用するのが前提のモデルなのであるから、「ICT 活用を含む……」とした方がよいのではないかという提案があった。）
- ・小見出し 2.5. OSCE 評価への活用、医療面接のロールプレイなどを応用例として明記する。
- ・小見出し 2.6 または 3. 人的支援、組織支援などモデルを実現するための支援策についてもう少し具体的に触れる。
- ・これらの検討に基づき青字修正案を作成した。

（2）モデル案 2 の追加・修正のポイント

- ・ICT の位置付けに関しては、上記のようにトーンダウンする。
- ・授業をネット上でオープンな学びの場を提供するが、完全にオープンできるかは検討の余地がある。当面は限られた枠の中でのオープンと取れるようにトーンダウンする。
- ・小見出し 2.4 の例示がきつく受け止められる。児童虐待はチームの必要性を社会に訴えるきっかけであったが、例示するものとしては、終末期医療や高齢者医療の方が受け入れられやすい。
- ・これらの検討に基づき青字修正案を作成した。

（3）モデル案 3

- ・ICT の位置付けに関しては、上記のようにトーンダウンする。
- ・小見出し 2.3 の②. PBL の記載はなくてもよいので削除する。
- ・小見出し 2.4 の③としてレスポンスアナライザーを取り上げなくてもよい。②に含め、記載内容を検討する。
- ・これらの検討に基づき青字修正案を作成した。（委員会後、吉岡委員から、TBL の記載に関して赤字修正案が示された。）

2. 今後の検討スケジュール

今回の委員会での確認事項を踏まえて、担当者はモデル案を再度修正し、次回に最終取りまとめを行うことになった。また、各授業モデルの点検・評価・改善（PDCA サイクル）について検討し、モデル案に 3～4 行の文章を盛り込むこととなった。

次回委員会は 3 月 14 日（水）午前 9 時～11 時半、事務局で開催することとなった。